

# 留学生のアルバイト時における日本人労働者との 交流意欲向上を目指した取り組み

－ネパール人留学生の問題認知と交流方法の指導の必要性－

福重一成\*

kazunari\_zai\_nanjing2011@hotmail.co.jp

岡田康太\*\*

okada@fk.jue.ac.jp

## ＜目次＞

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| 1. はじめに                | 4. ネパール人留学生への授業実践と効果      |
| 2. 先行研究と本稿の目的          | 4.1 授業実践の対象者と実践内容         |
| 3. 事前調査「アルバイトに関する意識調査」 | 4.2 ネパール人留学生用「バイトde交流シート」 |
| 3.1 調査対象               | 4.3 実践後の調査結果とその効果         |
| 3.2 調査内容               | 5. 終わりに                   |
| 3.3 調査結果と考察            |                           |

主題語: 異文化コミュニケーション(Intercultural communication)、日本語教育(Japanese language education)、外国人労働者(Foreign workers)

## 1. はじめに

日本学生支援機構(2019)の報告によると、2018年5月1日現在の外国人留学生は約30万人(前年比12.0%増)となっており、年々増加傾向にある。また、これに伴って、アルバイトをする留学生の数も増加することが予想される。さらに、日本への留学生数の多い国を順に3つ示すと、中国114,950人(前年比7.2%増)、ベトナム72,354人(前年比17.3%増)、ネパール24,331人(前年比13.2%増)である。

2018年12月8日、出入国管理及び難民認定法(以下、「入管法」と略す)の改正(以下、「改正入管法」と略す)が参議院本会議において可決・成立され、2019年4月1日から施行された。改

\* 日本経済大学 経営学部講師

\*\* 日本経済大学 経営学部講師

正入管法とは「本邦に入国し、又は本邦から出国するすべての人の出入国の公正な管理を図るとともに、難民の認定手続を整備することを目的とした法律」(内閣府HP)である入管法に、外国人労働者の受け入れを拡大する新制度を盛り込んだものである。このような改正入管法の施行によって、様々な分野において外国人労働者が増加することとなる。これによって、日本の労働者不足の解消が期待される一方で、国籍の違う労働者間で起こりうる問題やそれに対する不安が生まれることも懸念され、留学生のアルバイト先においても同様であると考えられる。特に、外国人に慣れていない日本国籍の労働者と、日本に来て間もない留学生が円滑にコミュニケーションをとることは困難であることから、その対策について研究を蓄積していくことが今後の日本の労働環境の改善につながると推測される。

そこで本稿では、近年特に増加傾向にあるネパール人留学生のアルバイト時における日本国籍の労働者との交流意欲に着目して、留学生の問題を明らかにし、その問題の解決策としてa.留学生の問題認識・意識づけをうながす指導、b.留学生の交流意欲向上を目指した取り組みについて述べる。

## 2. 先行研究と本稿の目的

日本国内の留学生のアルバイトにおける問題を取りあげた研究として、黄(2012)、高田・川村(2018)が挙げられる。

黄(2012)は、中国人私費留学生を対象とし、アルバイト先における被差別感の原因帰属と解決行動の関連について日本人店長が内集団ひいきをした場面と日本人の利用客と認識の不一致が生じた場面を設定し分析をおこない、そのような場面においては「対決」のような積極的な解決行動と「服従」のような宥和的な解決行動をとると結論づけている。しかし、黄(2012)の指摘にもあるように、対象者の精神的健康を維持させるための解決方法については明らかになっていない。

高田・川村(2018)は、日本国籍と中国国籍の学生アルバイト従業員を対象とし、離職意思、役割上のストレス要因、およびアルバイト従業員が知覚する組織的支援についてのモデル化をはかった上で、「自由な働き方や企業のような雇用形態によってボーダーレスな社会になりつつある今日、国籍や文化が混在する社会に対して考察のできるモデルを導出することが望まれる」と述べている。

黄(2012)、高田・川村(2018)のどちらの研究対象も中国人留学生という点は共通しているが、対象者の年齢や日本語能力等については考慮されていない。また、どちらの研究においても今後の課題について言及はしているものの、管見の限り、その後に開発・検討はなされていないのが現状である。

さらに、他の先行研究を概観しても、研究対象の大半は中国人留学生であり、それに加えて外国籍の非正規労働者やアルバイト従業員を対象としたものもごく少数である。

以上のことを踏まえて、本稿では、A大学のネパール人留学生を対象とし、日本国籍の労働者との交流意欲向上を目指した取り組みの効果を明らかにすることを目的とする。

### 3. 事前調査「アルバイトに関する意識調査」

第3章では、A大学の留学生におこなった「アルバイトに関する意識調査」の調査概要と結果・考察について述べる。

#### 3.1 調査対象

対象者は、2019年4月時点でA大学に在籍しているネパール人留学生109名である。なお、A大学は留学生数が日本で4番目に多く、特にネパール人留学生数が近年増加傾向にある。対象者の基本的属性については以下の通りである(<表1>から<表3>)。

<表1> 対象者の基本的属性①性別・年齢・日本語レベル

項目	分類	N	割合(%)
性別	男性	71	65.1
	女性	27	24.8
	未回答	11	10.1
年齢	10代	1	1.0
	20~24歳	41	37.6
	25歳~29歳	54	49.5
	30代	5	4.6
	未回答	8	7.3

日本語レベル	N1	0	0.0
	N2	16	14.7
	N3	25	22.9
	なし	60	55.0
	未回答	8	7.3

&lt;表2&gt; 対象者の基本的属性②日本滞在年数・アルバイト年数

項目	分類	N	割合(%)
日本滞在年数	1年未満	0	0.0
	1年以上2年未満	8	7.3
	2年以上3年未満	33	30.3
	3年以上4年未満	23	21.1
	4年以上5年未満	33	30.3
	5年以上	12	11.0
アルバイト年数	1年未満	0	0.0
	1年以上2年未満	12	11.0
	2年以上3年未満	33	30.3
	3年以上4年未満	29	26.6
	4年以上5年未満	24	22.0
	5年以上	11	10.1

&lt;表3&gt; 対象者の基本的属性③アルバイトの種類

アルバイトの種類	N	割合(%)
コンビニエンスストア	44	40.4
弁当	16	14.7
飲食店	13	11.9
物流	11	10.1
仕分け	7	6.4
スーパーマーケット	7	6.4
事務	4	3.7
ホテル	1	0.9
未回答	6	5.5

### 3.2 調査内容

「アルバイトに関する意識調査」の設問項目は、選択項目2問、複数回答可の記述項目3問である(<表4>)。

<表4> 「アルバイトに関する意識調査」設問項目

選択項目1. アルバイトは楽しいですか。 ①とても楽しい ②ちょっと楽しい ③どちらでもない ④あまり楽しくない ⑤全く楽しくない 記述項目2. (「1」で選んだ)理由を書ってください。(複数回答可) 選択項目3. アルバイト時、日本国籍の労働者と話すことがありますか。 ①よくある ②時々ある ③あまりない ④全くない 記述項目4. (「3」で①②を選んだ人は)何を話すか、(「3」で③④を選んだ人は)理由を書いてください。(複数回答可) 記述項目5. アルバイト時、何を考えていますか。(複数回答可)
---

### 3.3 調査結果と考察

「アルバイトに関する意識調査」の結果と考察について述べる。先行研究では考慮されていなかった日本語能力による影響を検討するために日本語能力試験の取得レベル別に分けて集計もしてみたが、特に目立った結果を得ることができなかった。また、すべての対象者の日本滞在歴が2年以上であるため、「日本語能力」による問題は本稿においても扱わないこととする。

アンケートの選択項目1. 「アルバイトは楽しいですか。」の回答結果は<表5>の通りである。

<表5> 選択項目1の回答結果

	N	割合(%)
①とても楽しい	42	38.5
②ちょっと楽しい	35	32.1
③どちらでもない	7	6.4
④あまり楽しくない	21	19.3
⑤全く楽しくない	4	3.7

<表5>から、「とても楽しい」と回答した学生は半数に満たず、多くの学生が何らかの不満、問題を抱えていることが考えられる。

続いて、記述項目2. 「(「1」で選んだ)理由を書いてください。(複数回答可)」で多かった回答を肯定的な理由と否定的な理由にわけ、それぞれについて<表6>に示す。

<表6> 記述項目2の回答結果

肯定的な理由： ・お店のスタッフや客と日本語を使って話しながら仕事ができる、交流できる(17.4%) ・お店のスタッフが優しい、仲が良い、助けてくれる(16.5%) ・同じ国の人が多い(15.5%) ・仕事が楽しい(10%) ・就職、文化、日本語などいろいろなことが学べる(8.2%)
否定的な理由： ・忙しい、厳しい、疲れる、つらい(19.2%) ・お店のスタッフと仲が良くない、友人がいない、ネパール人がいない(13.7%) ・アルバイトと学校(の授業)の両立が大変だ(7.3%) ・日本語がわからない(6.4%) ・お金のために仕方なくやっている(4.5%)

<表6>から、肯定的な理由として「話しながら仕事ができる」、「お店のスタッフが好意的」、「同じ国籍の人が働いている」などが挙げられていた。その一方で、否定的な理由として「忙しい、厳しい、疲れる」、「知り合いがいない」、「学校との両立が難しい」、「日本語がわからない」などが挙げられていた。

続いて、選択項目3. 「アルバイト時、日本国籍の労働者と話すことがありますか。」の回答結果を<表7>に示す。

<表7> 選択項目3の回答結果

	N	割合(%)
①よくある	52	47.7
②ときどきある	50	45.9
③あまりない	5	4.6
④ない	1	0.9
⑤未回答	1	0.9

<表7>から、約半数の留学生が日本国籍の労働者と話す機会が「よくある」と答えており、「ときどきある」と合計するとほとんどの留学生(93.6%)が日本国籍の労働者と話す機会があることが明らかになった。

続いて、記述項目4. 「(「3」で①②を選んだ人は)何を話すか、(「3」で③④を選んだ人は)理由を書いてください。(複数回答可)」の回答結果を<表8>に示す。

<表8> 記述項目4の回答結果

<p>①「よくある」②「ときどきある」を選んだ人が話すこと：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事のこと(技術向上・わからないこと、マナー、まちがえた時、挨拶程度等)(55.9%)</li> <li>・日本での生活のこと(大変なこと)(11.9%)</li> <li>・自分の国のこと(10%)</li> <li>・日本文化(料理、有名な所、歌、コンビニ)、社会(物価)、ルールについて(9.1%)</li> <li>・文化の違いについて(7.3%)</li> <li>・楽しい話、面白い話、遊びに行く話、おしゃべり(5.5%)</li> <li>・食事の誘い、遊びに行く(5.5%)</li> <li>・自分の紹介、好きなこと(ゲーム)、将来のこと(3.6%)</li> <li>・日本語の勉強のこと(2.7%)</li> <li>・学校生活、わからないこと(2.7%)</li> </ul>
<p>③「あまりない」④「全くない」を選んだ人の理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しく、話す時間がないから</li> <li>・仕事の時おしゃべり禁止だから</li> <li>・友達がいないから</li> <li>・カメラがあるから</li> <li>・日本人はあまりおしゃべりしない</li> </ul>

<表8>から、日本国籍の労働者と話す機会について「よくある」または「ときどきある」と答えた留学生は、「仕事のこと」(55.9%)について話す機会が最も多く、その他においては、

「日本での生活」(11.9%)、「自分の国のこと」(10%)、「日本文化」(9.1%)、「文化の違い」(7.3%)の順に話す機会が多いことが明らかになった。一方で、日本国籍の労働者と話す機会について「あまりない」または「全くない」と答えた留学生は、「忙しく、話す時間がないから」、「仕事の時おしゃべり禁止だから」、「友達がないから」、「カメラがあるから」、「日本人はあまりおしゃべりしない」などの理由で話す機会が少ないと回答していた。

続いて、記述項目5. 「アルバイト時、何を考えていますか。(複数回答可)」の回答で多かった回答を肯定的な内容と否定的な内容にわけ、それぞれについて<表9>に示す。

<表9> 記述項目5の回答結果

アルバイト時、いつも何を考えていますか。	
肯定的な内容：	
・仕事の責任、ミスしないように、仕事のスキル向上、売り上げ、効率、慣れたい(22.9%)	
・家族、恋人、友人のこと(11.9%)	
・まじめにがんばりたい、がんばろう(11%)	
・日本語能力向上、漢字、会話能力、日本語能力試験(9.1%)	
・将来の夢、将来のこと、帰国後のこと、いい会社に入りたい、日本での就職について(9.1%)	
・客への話しかけ方、丁寧な話し方、よい接客方法、もっと話したい(9.1%)	
・お金、給料のこと、使い方(7.3%)	
・母国で会社(レストラン、コンビニ等)を作りたい(母国にあれば、他国に来ずとも良いから)(5.5%)	
・いいコミュニケーションがとりたい、同僚と仲良くなりたい(3.6%)	
・日本での便利さ、すばらしさ、もっと知りたい(2.7%)	
・生活のこと(1.8%)	
否定的な内容：	
・ミスをしたり(店員・客に怒られる)、接客がうまくいかず、いやだ、悪い(10%)	
・仕事が早く終わらないか、家に帰りたい、うそをついて帰る(7.3%)	
・バイトやめたい、仕事をしたくない(5.5%)	
・日本語能力が相手に通じているか不安(2.7%)	
・国へ帰りたい(2.7%)	
・厳しくてやる気がない(2.7%)	
・(忙しくて)いやだ(2.7%)	
・勉強と仕事の両立ができるか、繰り返しがいや(2.7%)	
・変なこと(1.8%)	
・悪い客に気をつける、客がうるさい(1.8%)	
・給料が少ない(1.8%)	
・(差別を受けた時)いやだ(1.8%)	
・家に帰りたい(1.8%)	

<表9>から、留学生はアルバイト時にも関わらず、それ以外のことについても考えているという自覚があることから、それらをどのように日本国籍の労働者との会話場面で伝えていくかを考える必要がある。



以上すべての結果から、ほぼすべての留学生が日本国籍の労働者と話す機会が多いこと、また、その内容などについても明らかにすることができた。これらのことから、留学生と日本国籍の労働者が楽しく話す機会を作ることが重要であることが容易に推測され、それを支援することができれば、アルバイトに対する否定的な感情が低下するのではないかと考える。

本章の結果を踏まえて、第4章においては、留学生と日本国籍の労働者がどのような話をすればよいかを認知させ、それを彼らが実践できるように支援するために、①アルバイト時の交流における問題の認知、①日本国籍の労働者と交流する方法、以上2点を取りあげた授業実践について述べる。

## 4. ネパール人留学生への授業実践と効果

本章では、事前調査の結果を受けておこなった留学生に対する授業実践と、留学生と日本国籍の労働者の交流補助のために開発したシートの効果について述べる。

### 4.1 授業実践の対象者と実践内容

本実践の対象者は、事前調査をおこなったネパール人留学生の中から、日本語能力試験N1・N2に合格しておらず、日本滞在歴が2年から4年と回答した50名(男性36名、女性14名)である。

4月の事前調査後、5月に以下の手順で授業実践をおこなった(<表10>)。授業をおこなった教員は、本稿の主著者である(以下、「教員」とする)。

<表10> 本稿の調査と実践の手順

	内容	目的
2019年4月	学生への事前調査	問題の把握
2019年5月	授業実践 テーマ：「アルバイトで楽しく交流する」 1. pptでの事前調査結果の紹介(10分) 2. 「バイトde交流シート」配布 (1)シートの説明 (2)シートを使用した練習 (3)グループ活動	1…問題の認知 2(1)(2)…交流方法の指 2(3)…アイディアの共有、 意識づけ
2019年6月	学生への事後インタビュー	授業実践とシートの効果の確認、振り返り

## 4.2 ネパール人留学生用「バイトde交流シート」

以下は、授業実戦時の教材として使用したネパール人留学生用「バイトde交流シート」である(表11)。シートの内容は、事前調査の結果から①留学生と日本国籍の労働者の交流時に話題として用いられている項目、②留学生がアルバイト時に考えていることを如何にアウトプットするかを中心に考えて作成した。

〈表11〉 ネパール人留学生用「バイトde交流シート」

バイトde交流シート
<p><b>1. 私的な話…相手をもっとあなたのことを理解してくれる！</b>  「私的な話で申し訳ないのですが、ちょっと聞いていただけませんか。」  OKの場合↓</p> <p>(1)自己紹介【家族・恋人・友人のこと、好きなこと、趣味】  (2)日本での生活や、ネパールとのちがいがい【学校のこと、勉強のこと(日本語能力、漢字、会話、JLPT…)、ルールや文化のちがいがい、便利さ、すばらしさ、お金の使い方、勉強と仕事の両立、料理、有名な所、歌、コンビニやレストラン、国に帰りたい】  (3)夢について【将来の夢、目標、帰国後のこと、いい会社に入りたい、日本での就職、母国で会社を作りたい(レストラン、コンビニ…)】</p>
<p><b>2. 仕事の話…やる気を見せることで評価UP! 弱い部分を見せることも大事！</b>  「仕事のことで相談があるのですが、ちょっと聞いていただけませんか。」  OKの場合↓</p> <p>(1)やる気を見せる【仕事の責任、仕事のスキルUP、もっとがんばりたい、仕事の効率、売り上げ、よい接客方法、もっとコミュニケーションをとりたい】  (2)ミスや不安なことについて【接客がうまくいかない、まだ仕事に慣れない、怒られた、日本語が通じているか、外国人だということについて、同僚と仲良くなりたい】</p>
<p><b>3. お誘い…楽しかったこと、面白かったことと一緒に話そう！</b>  「もしよろしければ、お休みの日に外でお会いできないでしょうか。」  「〇〇へ行った/〇〇を食べたのですが、よろしければ今度一緒に行きませんか。」  ※ポイント…①相手にわかりやすく伝える ②相手の話を聞く  ③ボディランゲージを使う</p>
<p>ミッション①：こんど、アルバイトで日本人とどんな話をしたいか、考えてください。  ミッション②：グループになり、考えたこと(①)をみんなに話してみてください。リーダーはグループ内で出たアイデアをまとめ、発表してください。  〈memo〉</p>

### 4.3 実践後の調査結果とその効果

授業実践から約1ヶ月後、問題の認知と交流シートによる効果を調べるため、事後調査「アルバイトでの交流に関する調査」をおこなった。本調査の設問項目は、選択項目4問、複数回答可の記述項目1問である(<表12>)。

<表12> 「アルバイトでの交流に関する調査」

選択項目1. 授業でならったことを考えながら、交流しましたか。 ①いつもした ②ときどきした ③あまりしなかった ④まったくしなかった 選択項目2. バイトde交流シートを見て(または思い出して)交流しましたか。 ①いつもした ②ときどきした ③あまりしなかった ④まったくしなかった 記述項目3. (選択項目2で①～③を選んだ人)良かった点、悪かった点を書いてください。 (選択項目2で④を選んだ人)その理由を書いてください。 選択項目4. (授業や交流シートで勉強する前にくらべて)日本人との交流は増えたと思いませんか。 ①とても増えた ②ちょっと増えた ③変わらない ④あまり増えなかった ⑤まったく増えなかった ⑥減った 選択項目5. (授業や交流シートで勉強する前にくらべて)日本人と交流したいと思いませんか。 ①とてもしたい ②ちょっとしたい ③あまりしたくない ④まったくしたくない
--

選択項目1「授業でならったことを考えながら、交流しましたか。」と選択項目2「バイトde交流シートを見て(または思い出して)交流しましたか。」の回答結果は以下の通りである(<表13>,<表14>)。

<表13> 選択項目1「授業でならったことを考えながら、交流しましたか。」

	N	割合(%)
①いつもした	10	20.0
②ときどきした	34	68.0
③あまりしなかった	6	12.0
④まったくしなかった	0	0.0

&lt;表14&gt; 選択項目2「バイトde交流シートを見て(または思い出して)交流しましたか。」

	N	割合(%)
①いつもした	18	36.0
②ときどきした	28	56.0
③あまりしなかった	4	8.0
④まったくしなかった	0	0.0

<表13>と<表14>から、約90%以上の留学生在が日本国籍の労働者との交流時に授業実践、交流シートのどちらも「いつも」または「ときどき」意識していたことがわかる。

選択項目3「(選択項目2で①～③を選んだ人)良かった点、悪かった点を書いてください。(選択項目2で④を選んだ人)その理由を書いてください。」の回答結果は以下の通りである(<表15>)。

&lt;表15&gt; 「バイトde交流シート」の良かった点と悪かった点

良かった点	悪かった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい、簡単。</li> <li>・楽しい。</li> <li>・使ったら、前よりも話せるようになった。</li> <li>・日本人といっしょに見て話した。</li> <li>・交流が増えた。</li> <li>・ネパールのことをもっと聞かれた。</li> <li>・日本語を教えてくれる(ようになった)。</li> <li>・いっしょに遊びに行った。</li> <li>・友達ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にない。</li> <li>・使いにくい。</li> <li>・文字が小さい。</li> </ul>

<表15>から、「悪かった点」はシートの構成上の問題のみにとどまり、シートの内容に関しては肯定的に捉えている回答が多かった。

選択項目4「(授業や交流シートで勉強する前にくらべて)日本人との交流は増えたと思いますか。」と選択項目5「(授業や交流シートで勉強する前にくらべて)日本人と交流したいと思いますか。」の回答結果は以下の通りである(<表16>、<表17>)。

<表16> 選択項目4「日本人との交流は増えたと思いますか。」

	N	割合(%)
①とても増えた	20	40.0
②ちょっと増えた	26	52.0
③変わらない	4	8.0
④あまり増えなかった	0	0.0
⑤まったく増えなかった	0	0.0
⑥減った	0	0.0

<表17> 選択項目5「日本人と交流したいと思いますか。」

	N	割合(%)
①とてもしたい	44	88.0
②ちょっとしたい	4	8.0
③あまりしたくない	2	4.0
④まったくしたくない	0	0.0

本章のすべての結果から、授業実践による「問題認知」と「バイトde交流シート」によって、留学生はそれまでと比較して日本国籍の労働者との交流が増えたと感じており、彼らと交流したいという気持ちも強くなったことが明らかになった。

## 5. 終わりに

本稿では、A大学のネパール人留学生を対象とした「アルバイトに関する意識調査」において、ネパール人留学生がアルバイトでの交流時に抱えている問題について調査・分析した結果を踏まえて、留学生への授業実践と「バイトde交流シート」の配布をすることで、以下の2点の効果があると結論づけた。

- ① アルバイトでの日本国籍の労働者との交流時の問題を認知させる機会を作ることで、ネパール人留学生がより意識して彼らと交流するようになる。
- ② アルバイトでの交流方法の指導をおこなう機会を作ることで、ネパール人留学生と日本国籍の労働者との交流機会が増加し、交流意欲の向上につながる。

以上2点を明らかにしたことによって、今後さらに増加することが予測されるネパール人留学生への支援の一助となりうると考えられる。

今後の課題として、日本国籍の労働者側の交流意欲に焦点をあてた研究、実践をおこなう必要性が挙げられる。また、本調査の対象者は限定されていたため、今後は国籍別や男女別の結果の比較や考察をおこなう予定である。

### 【参考文献】

- 池田伸子(2009)「留学生の就職を支援するための実践的日本語教育について」立教大学ことば・文化・コミュニケーション1巻、pp.131-142
- 伊藤春子・比留間洋一(2019)「私費外国人留学生の特徴：アルバイトに関する意識実態調査から」星城大学研究紀要(19)、pp.29-36
- 大江道雅(2017)『新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店
- 久保田学(2018)『留学生のための就職内定ワークブック』日本能率協会マネジメントセンター
- 黄美蘭(2012)「アルバイト先における被差別感の原因帰属と解決行動との関連—中国人私費留学生の場合—」人間文化創成科学論叢第15巻、pp.73-82
- 高田健二・川村浩大伸(2018)「学生アルバイト従業員のストレス—知覚された組織的支援・離職意思の関係」日本経営工学会論文誌Vol.69、pp.47-60
- 内閣府男女共同参画局ホームページ(2016)  
[http://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/e-vaw/law/16.html](http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/law/16.html)(参照日2019年5月5日)
- 南雅彦(2017)『社会志向の言語学 豊富な事例と実践研究から学ぶ』くろしお出版
- 村上律子(2015)「学部留学生の社会参画の過程における言語管理：アルバイト場面でのインターアクションを中心に」千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書、292、pp.45-54

논문투고일 : 2019년 06월 24일  
심사개시일 : 2019년 07월 17일  
1차 수정일 : 2019년 08월 06일  
2차 수정일 : 2019년 08월 12일  
게재확정일 : 2019년 08월 16일

---

〈要旨〉

---

留学生のアルバイト時における日本人労働者との交流意欲向上を目指した取り組み

- ネパール人留学生の問題認知と交流方法の指導の必要性 -

福重一成・岡田康太

本稿では、近年特に増加傾向にあるネパール人留学生のアルバイト時における日本国籍の労働者との交流意欲に着目して、「アルバイトに関する意識調査」によって留学生の問題を明らかにし、その問題の解決策としてa. 留学生の問題認知・意識づけをうながす指導、b. ネパール人留学生用「バイトde交流シート」使用による交流意欲向上を目指した取り組みをおこなった。本稿の結論は以下の2点である。

- ① アルバイトでの日本国籍の労働者との交流時の問題を認知させる機会を作ることで、ネパール人留学生がより意識して彼らと交流するようになる。
- ② アルバイトでの交流方法の指導をおこなう機会を作ることで、ネパール人留学生と日本国籍の労働者との交流機会が増加し、交流意欲の向上につながる。

Efforts to improve the willingness to interact with Japanese workers during part-time job for international students

- Necessity of “Problem recognition” and “Teaching how to interact” with Nepalese international students -

*Kazunari, Fukushige-Kota, Okada*

In this paper, in recent years, we focused on the increasing tendency of Nepalese international students to interact with Japanese workers during part-time job. We clarified the problem of the international students by “the attitude survey about part-time job”. And, as a solution to these problems, we clarified the following two points.

- a) Instruction to promote “problem recognition” and “consciousness” of international students.
- b) Efforts to improve the willingness to interact by “part-time job de exchange sheet” for Nepalese international students. As a result, we clarified the following two points.
- ① By creating opportunities to recognize problems when interacting with Japanese workers during part-time job, Nepalese international students become more conscious and able to interact with them.
- ② By creating opportunities for Nepalese international students to teach how to interact with Japanese workers during part-time job, they will increase their opportunities for interaction and lead to an increase in their willingness to interact.